

# 10. 農業・報徳(二宮尊徳関係)

## ◆ 農 業

品切 帝国農会 編

復刻版

帝 国 農 会 報  
明治45年～昭和18年 全33巻・総91冊

揃ISBN 978-4-8447-0409-6  
A5判・B5判 各冊平均560頁

揃本体価938,000円

本誌は系統農会の中央機関誌として、農政経済問題についての主張・解説・各種統計や調査研究報告・海外事情の紹介など、系統農会相互の意志統一を目指す役割を持っていた。農政経済における高級理論誌・論叢誌として、『農業経済研究』と並んで戦前の農政経済問題、農業施策、農業団体の活動などの研究には不可欠の基本資料。 残僅少

配本	原本巻号	原本発行年月	冊数	分冊本体価	ISBN
1	第1巻上冊～第4巻下冊	明治44年前期～大正3年後期	8	96,000円	978-4-8447-5414-9
2	第5巻上冊～第8巻下冊	大正4年前期～大正7年後期	9	108,000円	978-4-8447-5415-6
3	第9巻上冊～第12巻下冊	大正8年～大正11年	8	72,000円	978-4-8447-5416-3
4	第13巻上冊～第16巻下冊	大正12年～大正15年	9	81,000円	978-4-8447-5417-0
5	第17巻第1冊～第18巻下冊	昭和2年～昭和3年	7	63,000円	978-4-8447-5418-7
6	第19巻上冊～第21巻下冊	昭和4年～昭和6年	8	72,000円	978-4-8447-5419-4
7	第22巻上冊～第24巻下冊	昭和7年前期～昭和9年後期	8	72,000円	978-4-8447-5420-0
8	第25巻上冊～第27巻第4冊	昭和10年前期～昭和12年第4期	9	99,000円	978-4-8447-5421-7
9	第28巻第1冊～第29巻第5冊	昭和13年第1期～昭和14年第4期	10	110,000円	978-4-8447-5422-4
10	第30巻第1冊～第31巻第4冊	昭和15年第1期～昭和16年第4期	9	99,000円	978-4-8447-5423-1
11	第32巻上冊～第33巻下冊	昭和17年前期～昭和18年後期	6	66,000円	978-4-8447-5424-8

武田 勉 編

『帝 国 農 会 報』  
記事索引目録

戦前系統農会の中央機関誌「帝国農会報」に収録されているほとんどすべての記事を検索し得るよう整理分類する。 (86・7 刊)

残僅少

ISBN 978-4-8447-0429-4  
B5判・130頁

本体価8,000円

川本 彰 著

## 日本農村の論理

ISBN 978-4-8447-0415-7

A5判・260頁

本体価1,600円

人間にとって家族とはなにか。家族とは必然的に「家」をつくるのか。そしてなぜ必然的に「家」は連合して村落を形成するのか？ 農村社会の構造を論理的に究明した問題の書。(72・2 刊)

残僅少

川本 彰 著

## 農村投資の社会効果

ISBN 978-4-8447-0416-4

A5判・370頁

本体価2,800円

今日、日本農村は各種の農村投資にもかかわらず、崩壊寸前にある。これら農村投資は農業・農村・農民に何をもたらしたか。膨大な調査活動に基づく根底からの問題提起の社会学。(73・10 刊)

残僅少

渡辺兵力 著

## 農業技術論

ISBN 978-4-8447-0418-8

A5判・230頁

本体価1,800円

昭和30年代の後半からの高度経済成長下で実現した、いわゆる農業近代化路線上の諸技術のあり方が各方面から反省的に問われようとしているが、これら諸問題の検討には、農業の本質あるいは原点をどう考えるかという課題をさけて通ってはならない。本書はこの課題に対する一試論である。(76・4 刊)

残僅少

村田富夫 著

## 養豚技術と経営発展 —豚飼養構造と経営安定化の展開方向—

ISBN 978-4-8447-0419-5

B5判・169頁

本体価1,900円

養豚技術に関与する諸要因の実証的分析と実践化を行ない、さらに安定的豚飼養構造の解明に努め、今後における養豚技術構造ならびに経営合理化のための実践的課題を究明する。(77・9 刊)

渡辺兵力 編著

## 農業集落論

ISBN 978-4-8447-0413-3

A5判・320頁

本体価3,700円

1970年「農業集落調査」参加者と研究者との成果。

1980年度「世界農業センサス」に向けて。

(78・5 刊)

残僅少

天野元之助 著

復刻版

## 中国農業経済論 全3巻

ISBN 978-4-8447-0414-0

A5判

本体価28,000円

復刻版原本

第1巻 旧題「支那農業経済論」上 (改造社版)776頁

第2巻 旧題「支那農業経済論」中 (改造社版)780頁

第3巻 旧題「中国農業の諸問題」上・下 (技報堂版)

714頁

(78・8 初版)

'85・3 2版)

本書は著者天野元之助の著作権継承者であるご子息天野悦男先生と正式契約を締結して刊行いたしました。

天野元之助 著

**中国農業の地域的展開**

ISBN 978-4-8447-0417-1

A5判・510頁

本体価7,500円

過去50年におよぶ天野元之助博士の調査研究の成果をまとめる。  
(79・8 刊)

大西信治 著

生協運動50年 第2部

**滿州農村合作社運動の記録**

ISBN 978-4-8447-0420-1

四六判・222頁

本体価1,300円

満洲国——實質は関東軍統治下の中国——の東北農民に対し、関東軍統治政策に批判的な日本の合作者運動家の活動は外来的な改良運動とはいえ、誠実にかつ自己犠牲的に活動してこの搾取を排除し、農業技術の向上に一抔の貢献を果した。本書は合作社運動員として、表立たず地味な働きを果した著者の見聞と自己の体験をめぐる関係資料をまとめたもの。  
(80・7 刊)

農商務省農務局 刊

復刻版

**租小作争議ニ関スル調査  
全2巻**

ISBN 978-4-8447-0410-2

A5判・873頁

本体価15,000円

大正期小作争議について、小作官が設置される前に、農商務省が行なった最初の調査で、大正10・11年局員を各地に派遣し、その調査復命書を抜粋したものである。調査地域は、新潟、佐賀、熊本、宮崎の4県を除き全国を網羅。付録として、大正10年農業争議表及農業団体表を添付。  
(81・7 刊)

姜 泰景 著／啓明大学出版部 発行

**水田酪農経営論**

ISBN 978-4-8447-0421-8

A5判・239頁

本体価2,500円

水田酪農はもともと地代負担力、単位面積当りの収益力の弱い酪農を稲作との結合によって、一個の結合体としてこれを補い、かつ稲作単作経営と比較しても同様の効果をあげようとするものである。この問題に理論的且つ現実的な解答を与える。  
(85・4 刊)

[残僅少]

金沢夏樹 編

**農業と農村**

ISBN 978-4-8447-0412-6

A5判・304頁

本体価3,800円

元農業総合研究所長・元日本大学農獣医学部教授、渡辺兵力博士の古稀記念論文集。但しこの種の刊行の常識を破り、渡辺兵力氏自身も含め、当代一流の学者、研究仲間による現代農業・農村問題解明の力作集として刊行。  
(86・2 刊)

[残僅少]

日本拓殖学会(編集代表 金沢夏樹) 編

日本拓殖学会創立20周年記念出版

**農業開発の課題  
—経済・技術・社会—**

ISBN 978-4-8447-0411-9

A5判・302頁

本体価3,000円

農業開発研究は、自然科学と社会科学とのあらゆる分野からの接近が必要である。それだけに農業開発研究の総合化は難しい。今回、日本拓殖学会創立20周年の記念誌として農業開発に係る経済・技術・社会の問題が論じられる意義は大きい。それぞれ斯界の第一線で活躍している14人の研究者の労作を取録。  
(88・2 刊)

[残僅少]

滝川 勉、広瀬昌平 共編

【金沢夏樹教授退職記念論集】

## 東南アジア農業生産の課題

ISBN 978-4-8447-8342-8  
A5判・274頁

本体価4,500円

日本大学農獣医学部国際地域研究所（当時）の国際研究交流と地域研究を目指した活動は、金沢夏樹教授が所長就任以後急速に展開しつつある。本論集は東南アジア農業生産の現状と問題点について研究所に関わる自然科学、社会科学両分野の研究者による最新の研究成果を、教授の退職記念として刊行したものである。（'91・12 刊）

金沢夏樹 著

## 農業経営学と私

ISBN 978-4-8447-8351-0  
四六判・206頁

本体価3,000円

農業経営学の泰斗金沢夏樹教授の古稀を記念し、教授の幅広い学問のエッセンスを弟子達が質問の形でまとめる。日本稲作の研究の深化とともに精緻化された金沢農業経営学理論の全体像解明を試みる。

深い学識、幅広い日本農業・アジア稲作への問題関心は若い学徒に極めて示唆に富む貴重な助言となるであろう。（'92・7 刊）

残僅少

Natsuki Kanazawa (金沢夏樹 著)

## SOUTHEAST ASIAN RICE FARMING AND FARMERS IN TRANSITION

(*Regional Research Institute of Agriculture  
in the Pacific Basin College of Agriculture  
and Veterinary Medicine Nihon University*)

ISBN 978-4-8447-8369-5  
A5判

本体価5,000円

During this long period study, my fundamental view of Asian agriculture has not much changed but has considerably deepened. Of course Asian agriculture itself has experienced drastic changes, and to a greater extent so have the economic conditions and structure of Japanese agriculture. It seems the fact that Japan is also located in Monsoon Asia has often been ignored. What are the common issues in farming in both Japan and Asia?

（'93 刊）

伊東秀蔵、岡本雅美 共編

## 大学とまちおこし —日本大学と岩手県大東町の協力の軌跡—

ISBN 978-4-8447-0431-7  
A5判・200頁

本体価3,000円

日本大学と岩手県大東町の昭和54年以後の交流の歴史をまとめる。「かじかの里復活事業」、同町の「景観形成基本方針策定」、「畜産の現状と行方」講演、「まちおこしの植物学」寄稿、「特産品開発」レッスン等々、日本大学の頭脳と提携して総合的改革を目指す岩手県大東町の「まちづくり」が成果を上げている。共通課題をかかえる他の自治体に有益な示唆を与えるであろう。（'96・3 刊）

残僅少

広瀬昌平 編／日本大学生物資源科学部国際地域研究所 (RRIAP) 10周年記念論文集

## アジアの食料と環境を考える —地域研究の新たな展開にむけて—

ISBN 978-4-8447-8467-8  
A5判・304頁

本体価6,000円

日本大学生物資源科学部国際地域研究所 (RRIAP) 設置10年目の記念出版。RRIAP所員、日本大学派遣研究員が東南アジアや中国で現地研究者と共同で行った調査結果に基づく論文11点を取める。

主要テーマは、1. 新しい農業システム 2. 農業の多様化 3. 食料消費と持続可能な食料システムの実現 4. 森林消失と環境劣化

（'97・2 刊）

日本大学生物資源科学部  
全国農村サミット運営委員会 編

## 全国農村サミット2000

ISBN 978-4-8447-8524-8  
A5判・282頁

本体価2,500円

日本大学生物資源科学部主催の「第2回全国農村サミット」の記録。農村地域に関わる幅広い横断的・包括的テーマを、全国の市町村の長と私学としての日本大学とが、共通する課題を自由に論議し、アイデアを交換し相互の理解と連携を深め、大学と地域との共存共生を目指して、激変する時代に対処する方策を模索する。(01・2 刊)

松村祝男 著

## 果樹作と庶民と地域の近代化 —河内みかん発達史—

ISBN 978-4-8447-5511-1  
A5判・約487頁

本体価10,000円

本書は、特にこれまで各産地の柑橘史や果樹発達史において、詳らかにされてこなかった昭和恐慌後から戦中・戦後における地域住民のみかん栽培についての国の政策への対応過程が、①自己の生活を守るための抵抗的行動や農地の解放を免れるために園地等の「耕種移動」、「耕作地移動」にみられる果樹農家の「したたかさ」と、②不在地主と位置づけられて僅かな農地を根こそぎ強制買収されていく農地改革時の帰国を希望する海外在留邦人の実態にみられるような「むなしさ」の両面を内包しつつ経過していった近代化の流れを、地域に残る資料を基に実証的に解明する。

(07・4 刊)

金沢夏樹先生追悼論文集編集委員会  
(世話人代表 高橋正郎) 編

## 金沢農業経営学とその展開 —追悼論文・偲ぶ文集—

ISBN 978-4-8447-0301-3  
A5判・358頁

本体価6,000円

農業経営学ならびにアジアの稲作農業論に多大の功績を残し、日本の農業経済学界をリードした東京大学名誉教授・元日本大学生物資源科学部教授金沢夏樹先生は、平成22年9月、惜しくも不届の人となったが、同氏が稲作技術論を基礎に現場から積み上げた数多くの論文は、日本農業経済学会、国際農業経済学会に、また国内のみならずアジア各地の農業発展に多大の寄与を果し、正に金沢農業経営学ともいべき金字塔を構築している。

本書は、人生訓「大道を行く」を身をもって実践した同氏の教訓を受け継いだ門下生一同中の有志が企画し、同氏の主要学説と回想を紹介すると共に、三十余名の追悼論文・偲ぶ文集を収録し、氏の研究業績、ご遺族の思い出等をまとめたものである。

(11・9 刊)

## 日本大学生物資源科学部国際地域研究所 (RRIAP) 叢書

日本大学生物資源科学部国際地域研究所 (Regional Research Institute of Agricultural Production: RRIAP) は、生物資源科学の国際地域研究に関する学際的な総合研究・調査並びに国際交流を含む教育活動を実施することを目的としている。本叢書はこの趣旨に沿い、同学研究者はもちろん、広く世界各地の生物資源や生産活動などに関心を持つ読者に情報を提供する。継続刊行の年報である。

### ① グリーン・レボリューション の20年

ISBN 978-4-8447-0501-7

186頁

本体価2,000円

世界の飢餓問題に対し始まった国際協力による食料増産キャンペーン「グリーン・レボリューション」活動（フィリピン国、ロスバニオスの国際稲研究所の活動と関係稲生産国との関連活動等）の20年を振り返って、モンスーンという高温多湿の風土の歴史のもとに、形成されて来た農業生産と技術のしくみ、農民のビヘイビヤールの特質、さらに、近代化を進めるに当たっての政府と農民の間のギャップ等に問題意識をもちながら、農学研究者の目で見つめようとする。  
(87・6 刊)

### ② 東南アジアの畜産 —過去・現在と将来—

ISBN 978-4-8447-0502-4

250頁

本体価2,000円

東南アジア農業において「畜産」はこれ迄おくれた分野であったが、今後必ずニューフェースとして展開する新分野であることは間違いない。この観点から家畜と農業の結びつきの深い西欧型農業と比較しつつ、東南アジアで畜産が発展し得なかった要因を分析し、今後の順調な展開を可能にする条件・課題などをさまざまな角度から検討する。  
(88・9 刊)

### ③ 東南アジア・農業と水

ISBN 978-4-8447-0503-1

150頁

本体価2,000円

東南アジアの「水」の生態がその農業を特徴づけている姿を3つの側面から検討。①温度・降雨量及び降雨の型等からみた自然条件の側面から。②「水」を管理する側（時には政府自身）と利用する側（生産農民）とを対比して考察する政治・社会的側面から。③水を人工的に統御する灌漑の技術レベルの面から。  
(89・11 刊)

### ④ 東南アジアの農民と ルーラル・デベロップメント

ISBN 978-4-8447-0504-8

184頁

本体価2,000円

1970年代に入り、多くの発展途上国では基本プロジェクトにルーラル・デベロップメントが取り上げられる様になった。食糧増産中心の時代から、都市と農村、近代部門と伝統的部門との格差、農民間での進歩の格差といった問題に論議の中心が移りつつある。それは雇用の創出、文化、教育、産児制限など人間生活の広い範囲に互っているが、今回は主に雇用問題を中心とする地域振興にポイントをおく。理論的にも政策論上も示唆に富むところ大であろう。  
(90・3 刊)

## ⑤ 東南アジア農業と日本

ISBN 978-4-8447-0505-5  
202頁

本体価2,300円

東南アジア農業の発展方向を考える時も、日本農業の将来を考える時も、東南アジア諸国と日本との共通した環境と課題についての認識が重要である。本集は日本だけでなく中国・マレーシア・タイ・アメリカ等の研究者の参加を得、東南アジア農業と日本の役割についてのレベルの高い議論を展開。(91・3刊)

## ⑥ 東南アジア農業と環境保全

ISBN 978-4-8447-0506-2  
206頁

本体価2,300円

現在世界的規模で環境破壊、環境汚染問題が起っている。農業面では集約的農業生産の追求から化学肥料、農業の大量使用をもたらし、結果として生態系の破壊と環境汚染を生み出している。今や生態系維持型農業が求められている。本集では東南アジア地域を主要対象に農業にかかわる環境問題に対する多面的接近を試みた。(92・3刊)

## ⑦ 東南アジア農業開発と環境・資源

ISBN 978-4-8447-0507-9  
160頁

本体価2,300円

80年代の後半に入ると、二酸化炭素の増加による気象異変、フロンガスによるオゾン層の破壊、あるいは酸性雨による樹木枯死といった環境問題が地球規模で問題にされるようになった。資源問題は環境問題と密接不可欠の関係にある。本集では統一テーマを資源・環境問題とし、東南アジア地域の資源・環境問題に焦点を置いて、農業開発とも関連してこの問題の実態認識にせまる。(92・12刊)

## ⑧ 東南アジアの自然・技術・農民

ISBN 978-4-8447-0508-6  
166頁

本体価2,300円

今日東南アジアでは国際的関連の下で環境悪化、生態系破壊が生じている。この地域で果たして環境と開発の両立は可能であろうか。東南アジアの自然環境の変化の現実を知り、熱帯的風土下での農業技術のあり方を問う。「自然災害」も単に自然現象と割り切らず、社会的要因をも追求し、環境・生態系・技術の多面的な調査分析報告をまとめる。(94・3刊)

## ⑨ 東南アジアの食品加工業

ISBN 978-4-8447-0509-3  
178頁

本体価2,300円

東南アジアの食品工業を、原料を供給する農村、その原料を使用して伝統的在来食品を加工する町、さらに大都市で大規模企業によって開発された新しい食品加工業、そして、その流通形態等に焦点を当てる。これ等の食品加工業の各国での生産構造を知ることは、食料の多くをかかへる国々に依存しているわが国としては、重要な問題である。(95・2刊)

## ⑩ 東南アジアの技術協力をめぐる諸問題

ISBN 978-4-8447-0510-9  
194頁

本体価2,500円

わが国が発展途上国に対して資金及び技術援助を開始してからすでに久しい。開始当時と現在とでは、発展途上国の社会経済的環境も大きく変化し、農業生産をとりまく環境も変わった。技術協力のあり方も、それに沿って内容の変化が要求されるはずであるが、実際にはどのように推進され、どのような成果が得られたのか。「技術移転」の本質を考え直す意図の下に、現状認識と今後解決すべき問題点を提示する示唆に富む報告。(96・2刊)

す意図の下に、現状認識と今後解決すべき問題点を提示する示唆に富む報告。(96・2刊)

## ⑪ アジアの農業・食料資源を考える

ISBN 978-4-8447-0511-6  
200頁

本体価2,500円

21世紀に向けてのアジアは農業・食料に関連するより深刻な問題を内包するであろう。例えば世界人口の60%近くを占める中国とインドの人口増加、急激な工業化と耕地面積の減少、生活の向上と食生活の変化、飼料穀物消費量の増加等々。これらの問題にたち向かう戦略と技術、予想される生活環境の劣化、農業を担う農民自身等をテーマに論議する。  
(97・2刊)

## ⑫ ポスト・グリーンレボリューションを考える

ISBN 978-4-8447-0512-3  
194頁

本体価2,500円

グリーン・レボリューションのもたらした食糧増産は多くの地域に恩恵をもたらし、世界平和に貢献したが、同時にもたらされた“負”の経験を多面的に検討。今回は①グローバルに見た人口と食糧問題、②高収量品種の開発、③豊かさにつながる農業生産方式の多様化、④動物蛋白の生産地としての半乾燥地帯の活用の4点につき議論する。  
(98・2刊)

## ⑬ ポスト・グリーンレボリューションを考える Part 2

ISBN 978-4-8447-0513-0  
170頁

本体価2,500円

ひとの歴史は餓えとの戦いの歴史であり、食糧増産を目指す努力の歴史でもあった。戦後の品種改良技術の発達、肥料・農薬の開発、農地基盤整備は多くの国々で穀類の増産を実現した。しかし収量増大の光の陰に発生した都会的貧富の格差をはじめとするさまざまな問題について、特に地球環境と自立・援助のあり方を中心に論議。  
(99・2刊)

## ⑭ ポスト・グリーンレボリューションを考える Part 3

ISBN 978-4-8447-0514-7  
186頁

本体価2,500円

⑬につづき“緑の革命”のもたらした負の遺産を如何にしてクリアするか。多様な生物資源、土・水資源の多元性と調和した伝統的農業の持つプラスの面をどうとり入れるか。新たな“統緑の革命”を目指し学際的・多面的に議論を展開。  
(00・2刊)

## ⑮ 農業と環境の未来 —土壌から見た環境—

ISBN 978-4-8447-0515-4  
152頁

本体価2,500円

土壌の視点から環境を考えようとする。日本ではさほど深刻でないが、土壌侵食、塩類化といった東南アジアをはじめ諸外国で深刻化している問題を基点に、環境問題を考える。  
(01・2刊)

## ⑯ 農業と環境の未来 —水圏から見た環境—

ISBN 978-4-8447-0516-1  
188頁

本体価2,500円

人類の諸活動のもと、各種生物が広く深く複雑に関係し合っていることが認識されつつある。特に大きなウエイトを占めている「水圏」の問題にはこれ迄認識の浅かった点は否めない。今回は「水圏」から環境や生態系問題を論議する。  
(02・2刊)



## ⑰農業と環境の未来 —森林から見た環境—

ISBN 978-4-8447-0517-8  
178頁

本体価2,500円

市民とのパートナーシップによる流域環境保全の視点から「森林」に迫る。「流域」とはそれ自体水を介在した人の生活の場であり、流域問題とは資源と水と人との問題でもある。流域管理のテーマを水の問題、都市の問題、ルーラルエリア、要するに農山村と漁村の環境問題としてとらえ議論を進める。(03・2刊)

## ⑱農業と生態系 —水田の多面的機能—

ISBN 978-4-8447-0518-5  
146頁

本体価2,500円

日本の農業の原点に立ちかえり「水田・米・イネ」をモチーフとしてシンポジウムをこれから3回に亘って開催する。今回は第1回目として「水田の多面的機能」をテーマとした。生産の場として、環境との調和の面から、そして環境の相互依存性の視点からそれぞれ議論を展開する。(03・2刊)

## ⑲農業と生態系 Part II —米をめぐる経済学—

ISBN 978-4-8447-0519-2  
156頁

本体価2,500円

農林水産省の米政策改革大綱決定により自主的な水田農業構造の改善方針が定まったこの時期、日本の水田農業の転換期を迎えるに当り、今日の米問題、水田農業、日本の農業・農村の行方を展望した極めて示唆に富む内容である。(04・10刊)

## ⑳農業と生態系 Part III —ゲノム研究の発展と 今後のイネ育種—

ISBN 978-4-8447-0520-8  
148頁

本体価2,500円

水田でコメを生産する母体である「イネ」に焦点を当て、育種学の分野からゲノム解析、遺伝子組換え作物、除草剤耐性、虫害耐性、耐湿性、耐寒性品種育成などの研究と成果の現状を紹介する。(05・10刊)

## ㉑グローバルゼーションと 食料・生物資源 —21世紀の食料生産・ 生物資源利用の展望—

ISBN 978-4-8447-0521-5  
148頁

本体価2,500円

国際地域研究所20周年記念シンポジウムとして海外から各分野の著名な研究者を招き、それぞれの国での研究内容紹介を通して食料生産と生物資源利用を広汎に展望する。

21世紀には環境の悪化から食料不足に陥るといふ懸念が一般的であり、この点に留意しつつ課題や対応を探る。(06・10刊)

## ㉒アジアの農業と農村の将来展望

ISBN 978-4-8447-0522-2  
118頁

本体価2,500円

第二次世界大戦後、小麦・米の高収量品種の普及と化学肥料の投入の増加に伴い、農業生産は人口増加を上回って増加した。しかし今後さらに増加が予想される世界人口を養う食料を確保する為の問題点として、アジア諸国の所得の向上がもたらしつつある食料消費の構造変化、世界的なグローバルズムの進行によるアジアの農業・農村への正負両面の影響等を水不足、砂漠化、温暖化等の自然環境の急激な変化との関連で掘り下げ議論し、アジアの農業と農村の未来像をさぐる。(08・2刊)

## ⑳ 東シベリア地域における動物群集の多様性と保全に関する研究

ISBN 978-4-8447-0523-9

124頁

本体価2,500円

シベリア永久凍土地域の動物群集については詳細な調査がなされておらず、環境変遷に伴う貴重な動物種の絶滅が危惧されている。

そこで、東シベリア地域における動物群集の種構成を把握し、その進化的背景と多様性の維持機構についての解明を目的とした日ロ共同の学際的研究報告。多数のカラー写真付。

(09・10 刊)

## ㉑ アジア農村の環境・エネルギー問題

ISBN 978-4-8447-0524-6

143頁

本体価2,500円

アジアに於ける農業と環境というテーマの中で、とりわけインドネシアを中心として、農村の環境問題とエネルギー問題に焦点を当てての議論。先進国と開発途上国とのエネルギー効率を比較しながら、農業生産性や環境にあたる影響について討論を行う。

(10・6 刊)

## ㉒ 南・東南アジア諸国における都市近郊農業の現況と展開方向 Status and Tendency of Suburban Agriculture in South and Southeast Asian Countries

ISBN 978-4-8447-0525-3

108頁

本体価2,500円

昨今は100年に一度といわれる大不況下で、農業の価値を見直すことが問われる時代に入っている。そこで今回は、都市近郊農業あるいは都市農業について開発途上国、特に南アジア・東南アジアに焦点を当て、これら地域での都市化の進行と共に表れて来た農業環境・生態環境の変化を、三年間に亘って実態調査を行ったプロジェクトの最終成果報告である。

(11・3 刊)

## ㉓ インドネシア東カリマンタン・マハカムデルタにおける開発が陸水生態系に及ぼす影響と環境修復 The development and rehabilitation to Mahakam delta ecosystem

ISBN 978-4-8447-0526-0

232頁

本体価3,500円

今日、環境破壊を伴う産業は、同時に環境保全を強く迫られる。これは東南アジア各国共通の課題で、早急な対応が望まれている。日本大学生物資源科学部国際地域研究所は、この問題関心から東カリマンタン・マハカムデルタ調査のプロジェクトを立ち上げ、インドネシア・ムラワルマン大学と共同で、開発が陸水生態系に及ぼす影響と環境修復についての調査を行った。本書は、その研究成果・関連研究の報告であり、実に両国研究者の19論文(内英文論文16点)を収める。両大学で行われた国際シンポジウムでは、活発な議論が展開された。

(12・3 刊)

## ㉔ 家畜と野生動物の共通伝染病に対する国際地域連携による早期警報システムの構築

Early warning system for emerging zoonotic diseases in Asian regions and the world: the wildlife/livestock interface

ISBN 978-4-8447-0527-7

112頁

本体価2,500円

近年、大きな問題となっている口蹄疫や鳥インフルエンザ、ニューカッスル病等々が、野生動物と家畜、ヒトとの間で、どのような感染ルートを進んでいるのか、また、迫っている危険に対し、その対策としての早期警報システムの開発は、どのように構築されているのかについて、各々専門の立場から問題を提起し、議論を行った。本書は、それらの問題について、多方面からアプローチを試みた研究結果の報告書である。

(13・1 刊)

### ⑳ 国際的な動物園ネットワークを用いた 野生動物感染症の早期警報システム

Wildlife infectious diseases and the early  
warning system using zoo network of the  
world

ISBN 978-4-8447-0528-4

160頁

本体価2,500円

国境を持たない野生動物がもたらす感染症対策は、「その制御および監視を動物園で行うこと」「動物園動物と野生動物の感染症情報を、密に交換していくこと」、そして「感染症予防のための早期警報システムの構築」が急がれるという趣旨のもと、国内はもとより、イギリス・台湾・韓国・シンガポール・中国の識者からさまざまな意見報告がなされた。

ここに収録された内容は、世界の動物園ネットワークを構築していく好機となる貴重な記録である。  
(14・1刊)

### ㉑ 野生生物の利用管理 —フードシステム・エコツーリズム ・エコビレッジの観点から—

Wildlife Management and Utilization

ISBN 978-4-8447-0529-1

224頁

本体価2,500円

本書は、平成23年度日本大学生物資源科学部国際地域研究所海外研究プロジェクト事業、「野生生物の利用管理—フードシステム・エコツーリズム・エコビレッジの観点から—」の3か年プロジェクトの取りまとめである。その目的は、「寄生虫や病原菌の検査と衛生管理体制の比較」「農村地域づくりや居住地づくり」などの調査結果から、野生生物との共生型地域づくりの論点を明らかにすることであった。

この調査内容について、まずはじめに各年に取りまとめとして国際シンポジウムでの講演内容を収録した。  
(15・1刊)

### ㉒ 東アジアにおけるローカル フードシステムの再編と展望

ISBN 978-4-8447-0530-7

212頁

本体価3,000円

近年進みつつあるグローバル化によって、フードシステム、いわゆる食品自給率の問題、食の安全・安心、その他にいろいろな問題が出てきている。その中で、ローカルフードシステムというものが目立られるようになり、地場産業が発展してきている。

本シンポジウムでは、それらの問題について韓国・中国・台湾、そして日本での取り組みについて議論し、今後の新たな展開を検討しようとする場が持たれた。  
(16・2刊)

### ㉓ 休閒・福祉農業の現状と 農地保全に係る今後の展開

ISBN 978-4-8447-0531-4

230頁

本体価3,000円

台湾において、行政院農業委員会の主導によって振興が図られている休閒農業の有用性と農地保全の方策について考察し、日本・台湾および韓国での今後の展開方向について調査・検討したプロジェクトの記録。国の政策とも言える台湾の休閒農業の研究を行うことにより、これによる農場運営計画等の技術指針を取りまとめるとともに、東アジア国際休閒農業学会の設立をも目指している。  
(17・1刊)

### ㉔ 昆布食文化のロシアにおける 普及ならびに昆布産業の振興 に向けて

ISBN 978-4-8447-0532-1

260頁

本体価3,000円

天然ものの昆布が獲れる環境にあるロシアにおいて、さらなる昆布食文化の普及と、今後の産業振興の方向性について議論がなされた。

実際に普及活動を行うにあたり、現在の問題点はなにか、消費者が興味を示す宣伝方法は、食卓での消費を則す調理法は、といった提案から、需要が増えることに対応する産業の振興の仕方についてなど、具体的な話が展開された。  
(18・2刊)

## ◆報徳（二宮尊徳関係）

神谷慶治 講述／川口 諦、佐々木豊 共編

二宮尊徳を現代においてどう捉えるか

### むらづくりの原理

—二宮尊徳に学ぶ

ISBN 978-4-8447-0422-5

四六判・256頁

本体価1,800円

晩年の尊徳の特徴は、「仕法雛型」。これを一種の社会発展計画のようなものだとすると、その思想はそのまま現代につながる。（“はじめに…”より）  
(81・11 刊)

渡辺利春 著

### 二宮尊親の北海道開拓

ISBN 978-4-8447-0423-2

B6判・192頁

本体価1,200円

二宮尊徳が、疲弊その極に達した、各藩の財政建て直しと貧苦に喘ぐ農民救済に当たった偉大な業績は、勿論経済繁栄を旨としたものである。しかし、尊徳はその裏打ちとしての精神的支柱を打ち建てることに、より懸命であった。ここに尊徳の独自の世界を見出すことができる。この精神を未開の北海道に開拓という姿で顕現させたのは、尊徳の弟子たちと、嫡孫尊親であった。  
(79・11 刊)

加藤仁平 著

成田開眼につづく

### 二宮哲学の成立

前編 ISBN 978-4-8447-0424-9

四六判・254頁

本体価1,500円

後編 ISBN 978-4-8447-0425-6

四六判・216頁

本体価1,300円

成田においてさとりを開いたという翁の喜びは七大誓願の実践を通して、愛情に徹した行政となり、教育となっていった。かくて村民の一人一人が、年とともに月とともに、個性に即してのその長所美点を発揚しうるように育てていったのであるが、いっぽう二宮翁自身においては、法悦を感じるとともに、自然に、鋭くしかも温かい哲学的な思索が芽生え、かつ成長していった。  
(前編 78・11 刊  
後編 79・11 刊)